

ラジオ放送レポート

ラジオ関西
R4.5.31

「健康サポート薬局について」

令和4年5月31日放送／兵庫県薬剤師会 副会長 西田 英之
兵庫県薬剤師会 常務理事 藤本 高弘

現在、新型コロナウイルス感染症オミクロン株の感染拡大による影響により、様々な健康や薬・介護について悩みをかかえておられる方もいらっしゃると思います。そのような中、本日は患者様の相談にお応えする健康サポート薬局とコロナ最新情報についてご紹介したいと思います。



Q1：医療機関の現状は？

3回目接種が進められ、同時に5～11歳の子どもへの接種（小児接種）も開始されています。全国的に若い年代で接種が低調です（3回接種した人が全人口の58.8%）。4番目のワクチン、ノババックス社のワクチンが5月23日の週から出荷され、6月から接種が開始される予定です。発熱頻度などの確率が若干低い傾向が出ており、2回目接種後の副反応をファイザーやモデルナと比べてみると、接種部位の痛みはおよそ60%、発熱は10%未満、疲労はおよそ50%と、比較的副反応は少ないとされています。そのため、行政は接種率の向上に期待を寄せています。このようにワクチンの在庫は十分にあり、過剰なほどです。ワクチンの期限は、ファイザー社ワクチン（5～11歳用）については、令和4年1月21日に薬事上の承認がされ、 -90°C ～ -60°C で保存する場合の有効期間は「9か月」となっており、同年4月22日に「9か月」から「12か月」へと更に延長されました。モデルナ社ワクチンも、 -15°C ～ -25°C で保存する場合の有効期間が、令和3年7月16日には「6か月」から「7か月」に延長され、同年11月12日には「7か月」から「9か月」に延長されました。このまま接種者が増えないと期限切れの可能性もあり、当病院の在庫の期限もそれほど猶予がなく、それを超えると使用できなくなりSDGSの観点からも好ましくない現状です。接種日程は自治体ごとに決められていますが、今一度、ワクチン接種を検討していただくきっかけになればいいと思います。

Q2：健康サポート薬局とは

昔は健康に関すること等なんでも気軽に相談できる薬局が商店街に1つはありましたが最近では医薬分業が進展し処方箋が入場券みたいな薬局が多くなってしまいました。そこで国は中学校区に1つは処方箋がなくてもお薬のことはもちろんのこと自分や家族の健康・介護等気軽に相談できる、つまり従来の保険薬局と昔の機能も兼ね備えた薬局を作ろうとしております。

まずは健康サポート薬剤師の育成をおこなっております。

この研修を受けることで地域住民の相談事に対応できるよう地域資源につなげたり、健康維持のためのセルフメディケーションのアドバイスを行います。兵庫県下には1,000名近くの薬局薬剤師がこの研修を受け地域で活躍しております。健康情報を発信できる薬局を創出していきます。



Q3：どんなことをしてくれるの？

最近では、親の介護や子供の発育に対する悩み・コロナ禍で誰にも相談できない精神的・身体的な悩みなど色々なケーススタディを学んだ薬剤師が問題解決の糸口を探ってくれます。

例えばフレイル（加齢とともに運動機能や認知機能が低下してきた状態）予防では ①一日当たりに必要なたんぱく質の摂取量 ②骨粗鬆症予防に必要なビタミンDやカルシウムの一日当たりの目標摂取量とそれらを多く含有している食材の紹介等を行い、また、無理のない適度に体の動かしかたを紹介し、フレイル予防にお応えしています。他にも、主なものとしては禁煙相談（今日5月31日は世界禁煙デーです）・ママサポート（妊娠中や子育て中のお母さんの相談会）・認知症早期発見（物忘れ外来担当医による認知症の病態、予防、治療方法や、簡単な体操を実演する等予防に役立つトレーニングなど）・アンチドーピング（公認スポーツフェーマシスト認定者などの薬剤師による教育啓発）・ゲートキーパーや薬物乱用防止（自殺予防のメンタルサポートや薬剤師による薬物乱用防止教室の開催）・薬と健康の相談です。

Q4：新規事業の献血サポート薬局について

今年度は健康をサポートするために献血サポート事業を行っていきたくと考えております。

まずは薬局の店頭において献血の促進のための広報活動をお手伝いします。

献血できた方は後日郵送される検査データを薬局に持ってきてもらい、そのデータを基に薬剤師が健康維持（食事や運動指導等）のためのアドバイスを行います。検査値に異常がある場合は専門医につなぎます。献血できなかった方に対しても（貧血のための食事指導など）アドバイスを行います。兵庫県薬剤師会ではこういった取り組みを通じて地域に貢献できる薬局を創出するために健康サポートの研修を各地で開催し健康サポート薬剤師を育成しております。

コロナによる健康意識の高まりがある一方で、健康への不安も同じく高まっています。

しかしそんな不安な受け口がネットで調べ、家族に話す、といった行動でしか解消できていないのが現状。地域の人々の健康を支える薬局が、いまこそつながりを持つ時です。

Q5：带状疱疹など最近、気になる疾患

今、「コロナ禍で带状疱疹を発症する人が増えている」と指摘する声があがっています。

疲れやストレス、病気などで免疫力が低下すると発症するとされる带状疱疹。もともと带状疱疹は高齢者が多いと言われていますが、コロナ禍では、若い世代の患者も増えていると言われています。

带状疱疹は、チクチクした痛みにつき、体の右側か左側のどちらか一方に赤く小さな水ぶくれを伴う発疹が帯状に現れます。発疹は体の至るところに現れますが、最も多いのは胸から脇腹にかけてです。顔や目の周りに現れることもあります。原因は、子どもがかかることが多い「水ぼうそう」と同じウイルスです。水ぼうそうは多くの場合1週間程度で治りますが、回復後もウイルスは体内からはなくなりず体の中に数十年以上潜みます。そして、加齢や疲労、ストレスや病気などで免疫力が低下すると神経に沿って体の表面に現れ、带状疱疹を発症します。初期症状の場合は、飲み薬を1週間程度服用することで治ります。症状が重い場合は注射薬での治療が必要になります。一方、新型コロナウイルスのワクチンとの関係を指摘する声もあります。ただ、带状疱疹がコロナ禍におけるストレスによるものか、ワクチンの副反応によるものなのかは分かっていません。带状疱疹発症の予防策としてはワクチンがあります。効果が高いのは『不活化ワクチン』です。『不活化ワクチン』は2回の接種が必要ですが、費用は1回あたり2万円程度と高額です。もうひとつは子どもが接種する水ぼうそうのワクチンと同じ「生ワクチン」です。やや有効性は落ちますが1回接種でしかも価格は半額以下です。自治体によっては補助を行っている地域もあるので、医療機関でワクチンの取り扱いがあるかを確認するとともに、自治体のホームページなどで補助についても確認をすることをお勧めします。

このほかにも欧州や北米などで感染症「サル痘」の患者の発生が報告され、日本への影響も懸念されています。飛沫感染も起きるが多くの場合は体液や発疹への接触により、人から人への感染はまれとされています。専門家は日本で新型コロナウイルスのように急速に感染拡大が起きるとは考えにくいと冷静な対応を呼びかけています。そして、もう一つが欧米で幼い子どもを中心に報告が相次いでいる原因不明の急性肝炎です。国内でも同様の症状で6歳以下の子どもが入院しており、急性肝炎の可能性があると確認されました。WHOによりますと、イギリスやアメリカなどで10歳以下の子どもを中心に、この原因不明の急性肝炎の患者が報告されています。海外で報告された患者からは一般的な肝炎ウイルスは検出されていませんが、患者の4割余りから、下痢やおう吐などを引き起こすアデノウイルスが検出されていますが関連はわかっていません。

Q6：コロナ ワクチン接種の現状と今後について

新型コロナウイルスワクチンの4回目の接種が、60歳以上の人や基礎疾患のある人などを対象に始まりました。私も6月に4回目の接種をする予定です。5～11歳を対象にした新型コロナウイルスワクチンの小児接種進められていますが、子どもをCOVID-19から守るためには、周囲の成人への新型コロナワクチンの積極的な接種も重要です。子どもへのワクチン接種には、メリット（発症予防等）とデメリット（副反応等）を本人と養育者が十分理解し、接種前・中・後にきめ細やかな対応が必要です。今後もワクチンに加えて感染を防ぐ3原則である、換気を励行する窓のある環境では、可能であれば2つの方向の窓を同時に開け、換気の励行。人

が多く集まる場合には、互いの距離を1～2m程度あけるなどして、人の密度の減。周囲の人が近距離で発声するような場を避け、やむを得ず近距離での会話が必要な場合は、マスクを使用し、咳やくしゃみによって自分から飛沫を飛ばさないように。これらに加えて、こまめな手指衛生、咳エチケットの徹底、共用品を使わないことや使う場合の十分な消毒などの感染予防対策が必要です。

Q1, 5, 6は西田が、Q2, 3, 4は藤本が主にお答えしました。

(コロナ治療施設の情報や最新ニュースを話題に生放送をしていますので、参考文献等は省略させていただきます。)



毎月最終火曜日、12時15分頃から10分間（生放送につき多少前後します。）
兵庫県薬剤師会が担当して、健康や薬についてお話ししています。

スマートフォンやパソコンなどから「radiko」の利用で放送後一週間以内なら
手軽に聴けますのでぜひお聴き下さい。